岡六四（大村市立病）堤恒雄・石崎驍（佐世保総合病）石川寿（長崎市立成人病センター）牧山弘孝・小田稔（国立東佐賀病）

肺結核患者81例にEVMを使用した。脱落3例を除いた78例につき検討した。そのうち初回例が8例あつた。菌陰性化率は初回例100%，再治療例27.3%であつた。再治療例では，感受性剤2剤との併用により66.7%が菌陰性化した。EVM準単独による菌陰性化率は14.7%であつた。副作用は発疹と耳鳴りの各1例であつた。難聴者にも使用したが難聴の増悪は1例もみられなかつた。EVMは喀痰内へ高濃度に移行した。

6. 熊本逓信病院肺結核入院患者の実態 平川潔（熊本逓信病呼吸器）

電電公社職員の結核療養者は昭和33年から48年の15年間に，全国で1,000人比10人から0.6人に顕著な減少を示している。昭和28年以降，24年間に本院に入院した肺結核患者について患者数，年齢別，発見時の状況，入院日数，病型，拡り，菌検査，療法，転帰等について統計的考察を行なつた。〔結果〕 本院においても，入院患者数の減少，高齢化，入院期間の短縮，化療の進歩強化により，治療がほぼ内科的療法に変わつてきたこと等がわかつた。

訂　正

○Vol. 53, No. 12 p. 580～581 の Table 3 中に誤りがありましたで，下記のように訂正し，謹んでお詫び申しあげます。

（誤）

Author		Tuberculin reaction	Serum gamma-globulin	Thymus	Lymphoid tissue
1. Holström	1953	−			
2. Meyer	1954	+ → −			
3. Thrap-Meyer	1954	+	↗		
4. Falkmer	1955	−	↘	↘	↘
20. Rdaszkiewicz et al.	1975	−	Ig ↘	↘	↘

（正）

Author		Tuberculin reaction	Serum gamma-globulin	Thymus	Lymphoid tissue
1. Holström	1953	−			
2. Meyer	1954	+			
3. Thrap-Meyer	1954	+ → −	↗		
4. Falkmer	1955	−		↘	
20. Rdaszkiewicz et al.	1975		Ig ↘	↘	↘